

2020年度 事業計画書

社会福祉法人 札幌この実会

2020年度法人事業計画概要

社会福祉法人 札幌この実会

昨年12月にグループホームを中心に事業の再編成を行いました。この新たな体制で2020年度は利用者の皆さんの安定した暮らしを目指し、当面の課題を整理しながら適切な支援に取り組んでいきます。

また、サテライト2・6及び隣接地に係る当初の方向性(日中活動の場+地域住民との交流・連携の場+地域生活の拠点)の具体化を図る計画については、2020年度は時期尚早と判断し、急ぐことなく慎重に検討していくこととします。

1. 理事会・評議員会の開催

理事:6人 監事:2人 評議員:7人

開催月	機関	主な議案等
5月	理事会	2019年度事業報告及び決算の承認
		定時評議員会の招集
6月	定時評議員会	2019年度事業報告 2019年度決算の承認
9月	理事会	
12月	理事会	2020年度補正予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2020年度補正予算の承認
3月	理事会	2021年度事業計画及び収支予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2021年度事業計画及び収支予算の承認

2. 監事監査について

各理事会前に監事が業務監査及び会計監査を行います。

3. 事業指定について

2020年度は、次のとおり指定の更新を受けるとともに、サービス管理責任者を変更します。

■2020年4月1日

○この実支援センターうえるなつつ …就労継続支援B型事業の指定の更新

○この実支援センター …多機能型(生活介護事業・就労継続支援B型事業)の指定の変更
サービス管理責任者の変更

4. 事業運営について

2020年度の運営事業は次のとおりです。

《この実サポートステーション》

■生活介護事業 この実サポートステーションすてつぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)約10,300人

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

■短期入所事業 りらつく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数)約1,100人

(体制)栄養士配置 食事提供体制

《この実支援センター》

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)約9,700人

(体制)福祉専門職員配置等 常勤看護職員等配置 重度障害者支援体制 食事提供体制
送迎体制

■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなつつ

(定員)15人 (年間利用者延べ人数)約3,400人

(体制等)福祉専門職員配置等 施設外就労 施設外支援

《コミュニティライフこの実》

■共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)46人 (共同生活住居)8ヵ所

(年間利用者延べ人数)約16,000人

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援等体制
重度障害者支援職員配置 医療連携体制

■共同生活援助事業 この実みなぼつけ

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数)約6,500人

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制
重度障害者支援職員配置

■短期入所事業 この実みなぼつけ

(定員)1人 (年間利用者延べ人数)約120人
(体制)常勤看護職員等配置 栄養士配置 食事提供体制

《相談室みすくうえる》

■特定相談支援事業 相談室みすくうえる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)

■一般相談支援事業 相談室みすくうえる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)

5. 収支バランスの改善に向けて

2020年度の当初予算では、収入の増加を大きく上回る人件費関連支出の増により、2000万円を超える人件費積立資産の取崩しが必要になっています。法人分離により現在の規模となった2016年度末に約6000万円あった人件費積立資産も1000万円を切る見込みです。

近年、高い人件費率が常態化するなか、人件費のうち事業活動収入の概ね70%を超える金額を人件費積立資産の取崩しで対処して収支バランスの改善を目指してきましたが、2020年度の人件費率の見込みは75%と非常に高く、事業再編後の収支はかなり厳しいものです。人員配置がこれまで以上に求められる一方、グループホームの給食業務委託は人員配置に換算されません。

今後の安定した運営に向けて道筋をつけるべく、収支バランスの改善を図る方策に取り組むこととします。

6. 地域における公益的な取り組みについて

2020年度も次の取り組みを通して、地域のなかで互いに助け合える関係づくりに努めていきます。

■外作業班による地域貢献活動

利用者の日中活動の一環として、地域住民の日常生活の困りごとのお手伝いを行います。

■福祉除雪

地域の支え合いとして行われている福祉除雪事業の地域協力員として除雪を行います。

■退所者に対する継続的支援

グループホームの退所者に対し継続的支援を行います。

■介護保険対象外の生活支援

「支援・相談室この実」において介護保険対象外の生活支援を無料で行います。

■福祉総合相談

「相談室みすくうえる」において、障がいのある方、高齢の方、そのご家族の困りごとなどを一緒に考え、地域における公益的な活動を目指します。

■朝市

地域に根ざした事業所を目指し、日ごろお世話になっている地域の方々に新鮮な野菜をできる限り安く販売する朝市を開催します。

■乗馬

自然に恵まれた盤溪で、乗馬を通して動物とかかわる機会を外部の方々にも提供します。

■清掃活動

近隣公園清掃業務を受託するほか、地域やバス停のゴミ拾いも併せて行います。

2020年度 事業計画の骨子

この実サポートステーション

1. 生活介護事業所「すてっぴ」

- 従来の箱折りや割り箸の袋封入などの生産活動は維持しつつも、レクリエーションや創作、乗馬を始めとした屋外活動など多様な日中活動を通じて生活リズムの確立や健康維持、情緒の安定を図っていくことに重点を置いていく。
- 利用者および保護者の加齢の進行などにより、事業所や職員に求められるものも変化してきていることを認識しなければならない。かつてのような作業中心、達成感重視の日中活動の組み立てではなく、衛生面や健康面、安全・安心、個々の利用者の特性の把握、保護者からの信頼といった事項に細心の注意を払っていき時期にあることを受け止めて、次代の事業所像を確かなものにしていく。
- 従来の職員に子育て世代のパート職員やボランティアの方などを加えた多様な層、多様な働き方を組み合わせて職員集団を構成し、風通しが良く暖かみのある福祉サービスを提供していく。
- 高等支援学校との連携を強めて、在学中からの実習の受け入れや、新卒者の受け入れに積極的に取り組み、新しい利用者を迎え入れる窓口を作っていく。今後、事業所として就労系のサービスに向かうことが困難な生徒の受け皿となっていくことを目指し、個々のケースに対して意識を高く持ってチームとして取り組んでいく。
- 送迎支援については、常に安全性を第一にして運営し、必要に応じて新たな経路を拡充していく。これからも毎日の送迎を通じて、顔の見える、暮らしに寄り添った通所サービスを実践していく。
- 新型コロナウイルスが世界的な蔓延を見せるなかで、先行きが見通せない状況におかれているが、事業所としてはこうした状況が長期することを前提として年間の予定を組んでいく。大きな行事については、安全面を第一に考慮して例年に比べて規模を縮小して実施していく方針とする。その上で、状況の変化にも柔軟に対応していけるようにしていく。

2. 単独型短期入所事業所「りらく」

- 通所利用者による宿泊を中心として、その家族の休息や予定のために利用してもらうことを基本として運営していく。緊急性のある利用希望にもできる限り応じて、利用者家庭の安心の支えとして位置づけていく。
- 相談室みすくうえると連携して、外部からの利用依頼にも柔軟に対応していく。

2020年度 事業計画書

この実支援センター

生活介護事業所「おりーぶ」では高齢化が進む中、作業や余暇等の活動を通して体力の維持や健康の増進につながるサービスを提供していきます。

今年度は、生産活動にも力を入れる一方で、体育館を使ってフォークダンスなどの余暇的な活動や、外部の社会資源を活用した余暇活動にも力を入れていきます。

サテライト2・6での従たる事業は昨年導入した箸の下請け作業の向上を目指し自分が働いている意欲を高める支援をしていきます。また、創作活動にも力を入れ新しいものを取り入れて行きます。

入浴支援では個々の状況をアセスメントしており、アセスメント状況を見てひとりで洗髪や洗体など出来ることがひとつでも増えるよう支援していきます。

就労継続支援B型「うえるなっつ」は、開所2年を終え、利用者一人ひとりのニーズが明確になってきました。今年度はステップアップとしてより一人ひとりのニーズに沿ったこれからの活動に重点を置いて支援していくことを考えております。また、工賃の向上についても昨年目標としていた1万5000円を達成することが出来ました。今年度も生産性のあるサービスについて考え、取り組んでいくことでさらなる工賃の向上を目指します。

現在12名の方が利用されております。今年度は高等支援学校卒業生が2名新規利用となり、他にも新規利用予定者がおりますが、2名の就職が内定しており、まだまだ欠員状態であります。まずは15名の利用者確保を目標とし、各方面（ハローワークや相談支援事業所、高等支援学校等）にうえるなっつの活動を伝えるなど宣伝活動を行い、新規利用者確保に努めます。

2020年度 事業計画書

コミュニティライフこの実

令和元年12月1日に日中サービス支援型共同生活援助事業所「この実みなぼっけ」の開所に伴い、共同生活援助事業所「この実らいふネット」と併せてこの実会のグループホーム事業をまとめて「コミュニティライフこの実」が発足した。

新たな取り組みとして始めたことも多く、4ヵ月で出てきた課題を整理してこの実会の理念である

『誰もが地域社会の中で自立した人間（ひと）として暮らすこと』

『一人一人が大切にされ、その長い生涯が支えられること』

を具現化するために活動を組み立てていく。

また、職員の意識としても、これまでの日中も夜間もといった関り方ではなく、グループホーム専属の職員として利用者により深く、より細やかに支援していく。

I.この実らいふネット

就労している方から、高齢の方、強度行動障害などがあり手厚い支援が必要な方といった様々なニーズに応えるため、それぞれのホームに役割や特色を持たせ、利用者ひとりひとりに寄り添った支援を行う。

各ホームで、季節に応じたイベントを行うなど楽しみの活動を取り入れ、家庭的な雰囲気の中で暮らしていただけるよう工夫する。

外出については、利用者にとって最も楽しい活動でもあり、行動援護や移動支援といった外部の事業所とも連携しながら計画的に行っていく。

II.この実みなぼっけ

区分の高い利用者や高齢者が多くグループホーム全体での外出は難しいが、グループを作って余暇活動等を充実させる。また晩酌会に季節的な要素を盛り込み、楽しめる活動を定期的に行っていく。

日中を「みなぼっけ」で過ごす方については、週に1度は外出の機会を設けるなど楽しめる活動を提供する。また、訪問リハビリなども活用し身体機能の維持を図る。

2020年度 事業計画の骨子

札幌この実会 指定特定相談支援事業所

相談室 みすくうえる

平成29年1月、社会福祉法人札幌この実会の地域貢献自主事業として福祉総合相談「みすく・うえる」を開設した。

福祉サービスを利用されていない地域住民（児童から高齢者、障がい者等）の日常の困り事に法人としてお手伝いできる事はないかとの協議の中から地域の駆け込み寺的な発想のもと相談窓口を開設し、2年間の自主事業としての実践の中から、平成31年1月までの相談数は28件程あり、同業者からも一定の評価を得ることが出来たことから更なる今後の展開を考える必要性が出てきた為、平31年4月に指定特定相談支援事業所（特定相談支援事業・一般相談支援事業）を開設した。

現在、契約件数は20名程度（今年度から札幌この実会の日中活動を利用される、支援学校を卒業した2名の方も含む）あり、今後サポートステーションの通所生がセルフプランの為、保護者と確認しながら相談室へと移行を進めていく。

今年度は、昨年度以上に関係機関の訪問を行い、担当者と常日頃から情報交換をするなど連携をとり、円滑な関係作りを図れるよう努めていきたい。

2020年度 当初予算について

2020年度当初予算の概要は次のとおりです。()…対2019年度第二次補正予算

《事業所合計》 ※法人本部を除く

事業活動収入 約 **436** 百万円強 (約 13 百万円強増 ◯) …別紙参照

人件費関係の支出 約 **328** 百万円強 (約 25 百万円弱増 ◯)

○人件費率 約 75%

○人件費積立資産取崩 約 **22** 百万円強 (約 13 百万円強増 ◯)

※限度額(人件費率 70%)306 百万円強を超える額

経常的なその他の支出 約 **131** 百万円弱 (約 8 百万円弱増 ◯)

《法人合計》

特別な支出に対する積立資産での対応 **2** 百万円

○施設整備資金借入金元金償還 1 百万円 (本部)

○GH 財産処分(SP)に伴う補助金返還 1 百万円 (本部)

(法人計)	支払資金残高 約 153 百万円弱
	積立資産残高 約 167 百万円強

※積立資産の収支 (退職給付引当資産を除く)						(単位: 千円)
		本部	この実サポート ステーション	この実 支援センター	コミュニティ ライフこの実	合計
取崩(A)	積立資産取崩収入	11,100	3,200	5,900	4,000	24,200
積立(B)	積立資産支出	8,336	0	0	0	8,336
(B)-(A)		▲ 2,764	▲ 3,200	▲ 5,900	▲ 4,000	▲ 15,864

2020年度の事業活動収入について

事業活動収入計	この実サポートステーション	この実支援センター	コミュニティライフこの実	相談室みすくうる	合計
2019年度	112,033,690	116,531,540	194,111,920	286,000	422,963,150
2020年度	106,783,160	115,845,000	213,078,000	735,000	436,441,160
差異	▲ 5,250,530	▲ 686,540	18,966,080	449,000	13,478,010
主な要因 (+)…プラス要因 (-)…マイナス要因	<p>■すてっぷ(生活介護)</p> <p>自立支援給付費収入…マイナス約40万円 (-)常勤看護職員等配置加算 (+)特定処遇改善加算</p> <p>特定費用収入…プラス約40万円(食事代) 経常経費寄附金収入…マイナス約500万円</p> <p>■りらっく(短期入所)</p> <p>自立支援給付費収入…マイナス約20万円 (-)利用者延人数減</p>	<p>■おりーぶ(生活介護)</p> <p>自立支援給付費収入…マイナス約190万円 (-)利用者延人数減 (+)特定処遇改善加算</p> <p>特定費用収入…プラス約20万円(食事代)</p> <p>■うるなっつ(就労継続B型)</p> <p>自立支援給付費収入…プラス約130万円 (+)利用者延人数増 (+)特定処遇改善加算</p> <p>■この実支援センター</p> <p>経常経費寄附金収入…マイナス約40万円</p>	<p>■らいふネット(共同生活援助)</p> <p>自立支援給付費収入、利用者負担金収入、 補足給付費収入、特定費用収入 合計…マイナス約3200万円</p> <p>■みなぼっけ(共同生活援助+短期入所)</p> <p>自立支援給付費収入、利用者負担金収入、 補足給付費収入、特定費用収入 合計…プラス約5100万円</p> <p>■コミュニティライフこの実</p> <p>経常経費寄附金収入…マイナス約60万円</p>	<p>■相談室みすくうる(計画相談支援)</p> <p>自立支援給付費収入…プラス約40万円</p>	

注) 2019年度…3月・第二次補正予算 2020年度…当初予算

2019年度のこの実支援センターは、2020年度と比較できるようコミュニティライフこの実分を分割した